



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録

対象：米国大学生第1陣（米国）

1. プログラム概要

米国から大学生及び引率者 50 名が 2019 年 12 月 15 日～12 月 22 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：50 名

（内訳）

グループ A(25 名)：タラディガ・カレッジ（アラバマ州）

グループ B(25 名)：テネシー大学（テネシー州）

【訪問地】

東京都(全員)、群馬県(グループA)、兵庫県(グループB)

2. 日程

	(1) グループ A：群馬県	(2) グループ B：兵庫県
12/15(日)	【来日】	
12/16(月)	【オリエンテーション】	
	【講義】SIMA 国際経営研究所 所長 木村 秀夫 氏	
	東京都から群馬県へ移動	東京都から兵庫県へ移動
12/17(火)	【学校交流】高崎商科大学	【視察】書写山圓教寺
	【視察】高崎白衣大観音	【視察】姫路城
	【ホームステイ対面式】	
12/18(水)	【ホームステイ】	【視察】キッコーマン食品株式会社 高砂工場
		【視察】橋の科学館、舞子海上プロムナード
		【ホームステイ対面式】
12/19(木)	【ホームステイ歓送会】	【ホームステイ歓送会】
	【文化体験】織物参考館・紫	【学校交流】甲南大学
	【ワークショップ】	
12/20(金)	群馬県から東京都へ移動	兵庫県から東京都へ移動

	【成果報告会】
12/21(土)	【視察】明治神宮，原宿 【視察】そなエリア東京，Mega Web トヨタ シティショウケース
12/22(日)	【視察】浅草 【離日】

3. プログラム記録写真 全グループ（東京都）



12/16 【オリエンテーション】



12/20 【報告会】

グループ A（訪問地：群馬県）



12/17 【学校交流】高崎商科大学



12/18 【ホームステイ】薪割



12/19 【ホームステイ歓送会】



12/19 【文化体験】織物参考館・紫

グループ B（訪問地：兵庫県）



12/17【視察】姫路城



12/17【視察】書写山圓教寺



12/18【視察】橋の科学館，舞子海上プロムナード



12/19【学校交流】甲南大学

4. 参加者の感想（抜粋）

グループ A（訪問地：群馬県）

◆ 講義では，日本の文化について沢山の知識を学ぶことができました。特に素晴らしかったのは学校交流です。互いに学び合いながら同年代の仲間と親睦を深め，生涯続くであろう絆を結ぶことができました。ホームステイでは最も素晴らしく目を見張る体験をしました。日本と日本人の真の美しさを見ました。カケハシ・プロジェクトの全てが素晴らしかったです。このプログラムに参加することができてとても幸せです。本当に感謝しています。

◆ 各プログラムはそれぞれに特徴がありとても多くの知識を得ることができました。講義では日本についての様々なこと，例えば日本の歴史的建築物保存のためにお城に寄付をして城主の一人になることができることを学びました。学校交流は今回のプロジェクトの中でもとても気に入ったプログラムの一つです。高崎商科大学の学生はとても親切で，米国や米国の文化にとっても興味を示してくれました。学生の何人かとは SNS 情報を交換しました。ホームステイは訪日中のハイライトでした。私のホストファミリーのお父さんは素晴らしかったです。

グループB（訪問地：兵庫県）

◆ 私は大学で日本語を副専攻しておりますが、本プログラムの講義は興味深く、知らないことが多くあり、とても良かったです。学校交流は、素晴らしい体験でした。特に、授業と一緒に参加して、日本の学生がどのように学んでいるかを知ることができたのが良かったです。学生の皆さんは私たちをとても歓迎してくれました。お互いの言語を練習することで、打ち解けて話すことができました。キッコーマンの醤油は、アメリカで最も知られている日本製品ということもあり、同社への訪問はとても興味深かったです。案内して下さった方は、醤油の製造工程を丁寧に説明してくださり、日本企業に対する認識をさらに深めることができました。ホームステイは、一番よかったプログラムです。ホストファミリーはとても親切で、今までにないほど日本人たちを近くに感じました。文化の面でも言葉の面でも多くを学び、生涯続くつながりを得ることができました。また姫路城や世界一長い吊り橋に行くことができたことも素晴らしく、良い学びとなりました。私は歴史が好きなので、そのような場所を実際に訪れて直接見ながら、SNSに載せる写真を撮れたことも良かったと思います。

◆ 講義では、日本の文化がいかにして今の形になったのか、そして日本人が何世紀もの間いかにして試練に耐えてきたかを学びました。学校交流では、大学生の日常生活の様子や、日本社会において課外活動が非常に大切ということを理解することができました。キッコーマンを訪問したことで、醤油がどのように造られているかを学びました。また日本の多くの企業では、原材料を海外から輸入しなくてはならないのだと知りました。ホームステイは、このプログラムの中で一番よかったことの一つです。ホストファミリーはとても親切でいい人たちでした。彼らが自分に会いにテネシーに来てくれたらと思います。彼らのおかげで日本の家の暮らしをより深く理解することができました。また夕食後の自由時間もとても楽しく学び多い時間でした。街中を歩き回って、日本の街がどのように設計されているかを知りました。温泉を体験したことからも新しい発見が得られました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

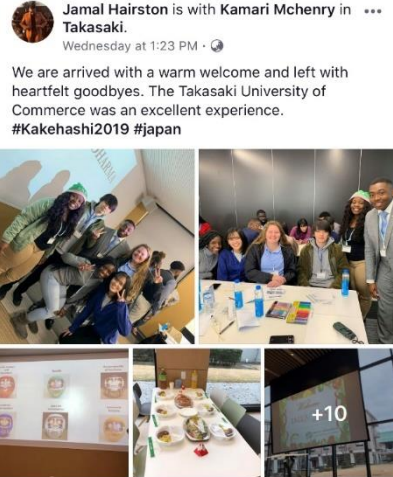
◆ 学校交流参加学生

今回のタラディガ・カレッジの学生との交流会は主にフリーディスカッションを中心に行われ、今の自分の英語力がどこまで通用するのか挑戦するいい機会となりました。お互いの大学のことや、趣味などについて話し合いました。お昼の時間にはタラディガ・カレッジの学生に流行りのダンスを教えてもらい大いに賑わいました。プレゼンテーションでは日本の食文化(割り箸のマナー)について伝えました。自分の英語が通じた瞬間や聞き取れた瞬間はとても嬉しく、自信になりました。このような会を開いていただいた方々に感謝し、これからの学生生活に活かしていきたいと思います。

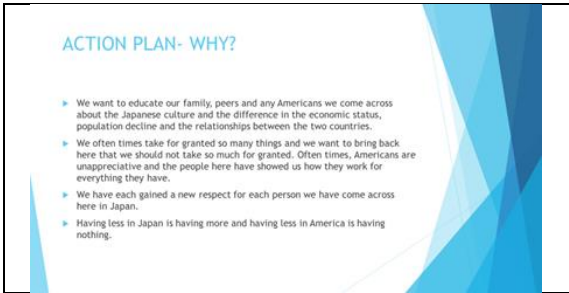
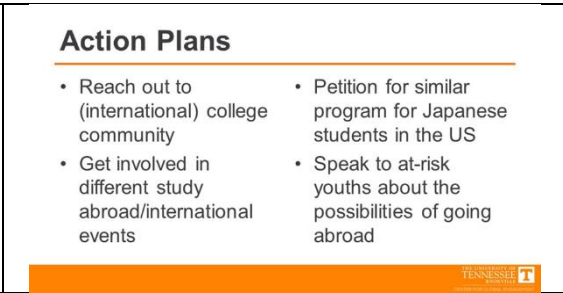
◆ ホストファミリー

短い期間でしたが、とても穏やかで優しい学生で良かったです。子供たちは、ゲームや折り紙、トランプなどの遊びを通しての交流ができました。とても落ち着いたグループで、テネシー大学への印象もとても良かったです。

6. 参加者の対外発信

 Jamal Hairston is with Kamari Mchenry in Takasaki. Wednesday at 1:23 PM · 🌐 We are arrived with a warm welcome and left with heartfelt goodbyes. The Takasaki University of Commerce was an excellent experience. #Kakehashi2019 #japan 41 Likes · 3 Comments · 1 Share Like Comment Share	 Isaac Russell Yesterday at 23:07 · 🌐 Extremely fun day today! Ended the short homestay, and got to do a mini exchange with students at 甲南大学! (Konan University) I was able to help a few students in their English classes and chat with some as well! All of the students were extremely nice and helpful, which is the culture that is here in Japan! We also got to watch Konan students play the Taiko drums (videos soon, it was amazing) and I even participated in a Japanese tea ceremony! The ceremony was very intricate, each movement symbolizing something different. Amazing day today. #kakehashi2019 #utkglobal @utknnoxville #japan #USA #JICE 25 Reactions · 4 Comments Love Comment
学校交流についての発信 (Facebook) 私たちは温かい歓迎のもとに到着し、心に残る別れをしました。高崎商科大学での経験は素晴らしいものでした。	学校交流についての発信 (Facebook) 今日はとても楽しい日でした。短いホームステイを終え、甲南大学で学生たちとミニ交流をしました。英語の授業で日本の学生を手伝ったり、彼らとおしゃべりもしました。学生たちは誰も皆とても親切で、私たちを助けてくれました。これこそ日本の文化だと思います。甲南大学の学生の和太鼓の演奏も見ました（動画もそのうちアップロードします。素晴らしかったです）。そして茶道体験もしました。お作法はとても複雑で、一つひとつの動きに象徴的な意味がありました。素晴らしい一日でした。

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 ACTION PLAN- WHY? ▶ We want to educate our family, peers and any Americans we come across about the Japanese culture and the difference in the economic status, population decline and the relationships between the two countries. ▶ We often times take for granted so many things and we want to bring back here that we should not take so much for granted. Often times, Americans are unappreciative and the people here have showed us how they work for everything they have. ▶ We have each gained a new respect for each person we have come across here in Japan. ▶ Having less in Japan is having more and having less in America is having nothing.	 Action Plans • Reach out to (international) college community • Get involved in different study abroad/international events • Petition for similar program for Japanese students in the US • Speak to at-risk youths about the possibilities of going abroad
アクション・プランの発表（グループ A） • 帰国後友人，家族，仲間に今回のプログラムについて話す。地域の小学校にも行って話をする。 • 大学には日本人学生がいないので，日本や日本の文化について触れる機会がないが大学で行われる「国際週間」という大きなイベントでパワーポイントのプレゼンをし，人々に日本への関心を持ってもらう。 • 大学のそれぞれの専攻学科内で日本のプレゼンテーションをし，体験の紹介をする。 • 日本文化をキャリアパスセンターや学食で紹介し，海外留学を希望する学生に協力する。	アクション・プランの発表（グループ B） • 大学内のコミュニティ（とくに国際系）にアプローチする。 • 留学イベントや国際的なイベントに出展する。 • 日本の学生を米国に招へいする同様のプログラムが実現できるよう嘆願書を書いて州に働きかける。難しい状況におかれている若者たちに対して，海外に出る（世界を広げる）という可能性について話をする。